

2007 年度 シンポジウム活動

《テーマ》 ASEAN+3 諸国における人間の安全保障シンポジウム

「女性と貧困の撲滅」

【国際専門会議】

開催日 2007 年 7 月 5 日、6 日

会場 東京

参加国 ブルネイ・ダルダラーム/カンボジア/中国/インドネシア/日本/韓国/
ラオス/マレーシア/ミャンマー/シンガポール/タイ/ベトナム

会議概要 参加したすべての国が、女性と貧困の問題について実情を報告し、それを克服する為にどのような努力をしているかを話しました。
特に成功例、努力したのにうまくゆかなかった例等、具体的に話し合いが特徴でした。「勧告」はその討議の成果です。
アジアの国には、男性優位の家父長制がいまだに幅を利かせている国が少なくなく、女の子は学校に行かせるより家事手伝いをさせる、人身売買の対象にする、などの例が少なくありません。
そうした意識や構造が、さらに女性の貧困を生み、増加させる原因です。だから女の子にも教育をあたえる、職業教育も男女隔たりなく行う、意思決定の場に女性の参加を奨める、女性に起業の機会を与えるなどの取り組みが求められているのです。

【公開シンポジウム】

開催日 2007 年 7 月 7 日

会場 国際連合大学

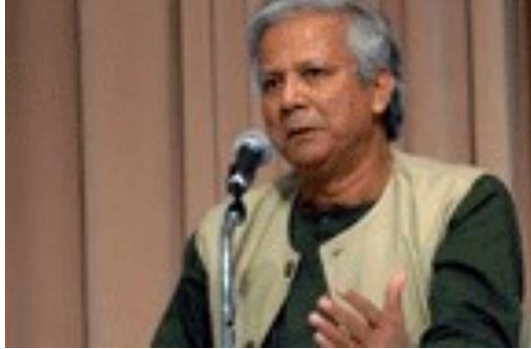
ゲストスピーカー 2006 年ノーベル平和賞受賞
ムハマド・ユヌス氏（グラミン銀行総裁）

基調講演 ユヌス氏はバングラディッシュの出身で、アメリカの大学で経済学を教えていました。母国の独立に伴い、国の役に立とうと思って帰国しましたが、直面したのは途方もない貧困に苦しむ人々の現実でした。学生と調査した村で出会った女性たちの 42 人が高利貸しから金を借りて生計を立てていましたが、その総額はわずか 27 ドルでした。
ユヌス氏は銀行に、彼女らに金を貸すように提案したのですが、貧乏人に、まして女性に金を貸すなんてと、一笑に付されました。それなら、と自分で少額融資を始め、女性たちが鶏を飼って卵を生ませたり、小さな店を開くの

特定非営利活動法人 女性人権機構

を助けたりして、女性の貧困からの脱出を支援したのです。融資の返還率はものすごくよく、たいてい90%を超えています。

この方式は、現在では世界100ヵ国以上で行われています。



基調講演ゲストスピーカー ムハマド・ユヌス氏



公開シンポジウム会場

※本シンポジウムは日本外務省ならびに読売新聞社の協力を得て、日本・ASEAN 統合基金 (JAIF) の財政支援の下、開催した。